

ネイルアーティストの講話を計画

清流太川

私の友人の娘さんで現在、ヘアメイク・ネイルアーティストとして活躍中の山川暁子(やまがわあきこ)氏を紹介いたします。山川氏は名護市出身の80年代の女性で、名護高校→山野美容専門学校を経て、ヘアメイク・ネイルの魅力と広がり求めて単身渡米、一年に六回開かれる全米ネイルコンクールに出品し、たびたび優秀な成績を収めたり、独特のヘアメイクでファッション雑誌の表紙や映画のメイク担当を任せられるなど、幅広く活動しているロサゼルス在住のアーティストです。



友人からいただいた名刺もおしゃれ



You-tubeで配信中の「KupaTV」の蝶ネイル

羽地中学校
学校だより 102号
せいりゅうおおかわ
H30.10.10



↑パイレーツ・オブ・カリビアン風のネイルで賞を獲得した最新作。10本のネイルそれぞれに海賊どもが立体で表現されています。

メイクを担当したファッション誌の表紙、メイキング映像もあります。



一体全体、どんな絵筆やブラシで描いているのか不思議でたまらないハロウィンのドッグチーム。それにしても縦に長いネイル。

ホワイトボードは説明しない

ホワイトボードは、一目で見て分かるように書く



- ◎ ホワイトボードの活用の仕方
- ◎ 全員が自分の考えを書いて話し合う。
- ◎ 文字はみんなから見えるよう工夫する。
- ◎ 大きく、色ペン、波線、グラフ、絵
- ◎ 内容の説明を省くため、理由や根拠も書いておく。
- ◎ 説明的な発表はしない。
- ◎ 黒板に掲示、すぐに比較・分類する。
- ◎ 新たな考えを出して授業を展開する。

高知県教育センターの研修アドバイザー西留安雄氏によれば、「生徒が主体的となる授業は、生徒同士の対話のなかで成立する。ホワイトボードは話し合いを見える化する事ができる。」として、ホワイトボードの効果的な活用を提案しています。

「教師が質問し、生徒が単語で答える。よくある授業風景ですが、教えるようにするから、性急に答えを求めようとする。すると、どうしても出てくる言葉が単語になってしまふ。」

じっくり考えてもらうために、時間を設定したり、グループで話し合いをさせたりする。

ホワイトボードは、個人で考えたり、グループで考えたりするのに有効だ。みんなと共有するために使うから個人のノートとは違い考えを見える化するアイテムだ。但し、ホワイトボードは、いつも決まった生徒の考えが優先して他の生徒が考えなかったり、発表した上で、深く考えたりしない状態になる時がある。

発表する時間がもつたないから説明はしない。掲示して、すぐに比較・分類する、新たな組み合わせや考えを出せるようにする。そうすることで、深い授業を進める。実践してみたいですね。